



第43回例会開催

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄の事と存じます。今年は暖かいため、すでに花芽が出てきているところもあります。ほとんど蓮開花の時期が到来します。いつそ蓮の花に親しみ下さい。
蓮通信44号をお届けします。

蓮文化研究会の第43回例会を、無事に終えました。春先は恒例の「分根と植替えの実習」です。気温は24度、初夏を思わせるような日、会場となった東京大学緑地植物実験所(千葉・検見川)では、桜(御衣黄や普賢桜など)が満開!

北は秋田や山形から、西は浜松や豊橋から、それに関東の会員たち、総勢30名ちかくが集まり、事務局で自己紹介。つづいて南会長の指導により初心者も全ての作業に参加しました。現場で、いくつも蓮桶を引っくり返し、水をかけながらの選(剪)定、さらには土こね、施肥の後、実際の蓮根の植込みに若い女性も嬉々としていました。一汗後、例年花蓮が密生するコンクリート槽や、ずらりと並ぶ蓮桶を見おろしながら、高みにある東屋での昼食会となりました。各自自慢の手づくり蓮料理や地元の特産など、多種多様にテーブルをにぎわし話題は弾み、「左党」も上機嫌!

そして終了後、蓮根のプレゼント。実習で掘りだした輪王蓮・桜蓮・天昇などのほか、白井会員から提供のあった友誼牡丹・白光蓮・紫気蓬菜など、参加者たちは希望の品種を分け合いました。

これらの種蓮根が、どんな環境に植えられ、どんな花をつけるか、各地からの報告が楽しみです。乞、ご期待!



例会参加者

新会員紹介 (3月〜4月に入会された方)

菊池宏枝 (立正佼成会) 〒一六六・八五三四

東京都杉並区和田* * * *

電話・FAX 03-53341-****

メール hioekikuh@kosei-kai.or.jp

URL <http://www.kosei-kai.or.jp>

伊藤昭二 〒三〇二・〇一九

茨城県守谷市御所ヶ丘* * *

電話 0297-45-****

メール stoo@com.home.ne.jp

大藪晃子 〒一六四・〇〇二

東京都中野区上高田* * *

電話 03-33361-****

FAX 03-33361-****

メール ak2jws@yahoo.co.jp

安中観史 (高圓寺) 〒一七二・〇八二

千葉県市川市宮久保* * *

電話 047-372-****

観蓮会・蓮行事をお知らせ下さい

近年、盛夏の一時を親しい友人を招き清涼を求めて、観蓮会を行う会員が増えてきているようです。観蓮会を予定している会員の方、また、皆様のお近くで観蓮会や蓮行事の計画がありましたら、事務局までお知らせ下さい。

会費納入のお願い

二〇〇九年の会費納入をお願いしています。未納の方は早めに納入をお願い致します。

賛助会員 二〇,〇〇〇円

夫婦会員 八,〇〇〇円

一般会員 五,〇〇〇円

郵便振替口座 蓮文化研究会 00170-5-

608708

中国・第23回花蓮展参加者募集

今年の中国荷花展は蓮の花の開花時季がことなるため、6月マカオと7月蘇州の変則開催です。

マカオは返還初年の開催以来10年ぶり、蘇州の拙政公園は15年ぶりの開催です。マカオ大会の大まかな日程は次のとおりです。

- 6月9日(火) マカオでノミネート
 - 6月10日(水) 開会式、観蓮
 - 6月11日(木) 交流・閉会式
- 蘇州大会の大まかな日程は次のとおりです。
- 7月7日(火) ノミネート
 - 7月8日(水) 開会式
 - 7月9日(木) 観蓮
 - 7月10日(金) 交流・閉会式

北限蓮調査ツアーの案内

ロシア・中国の北限の蓮調査7月24日から8月1日の予定で、ロシア・ハバロフスク近郊及び中国・黒龍江省の北限の野生蓮調査ツアーの準備中です。同行の会員を募集しています。費用及び日程などは、事務局までお問合せ下さい。

「花蓮」オリジナルフレーム切手発売

販売期間 5月1日(金)から8月31日(月)
郵便局株式会社関東支社では、南定雄会長の勤務先である、東京大学緑地植物実験所で咲く花蓮をデザインした「花蓮」が販売されました。販売単位シート単位、80円切手×10枚、販売価格1200円。

販売場所 千葉市及び市原市に所在する郵便局
切手の花蓮は大賀蓮、妙蓮、大瀧錦、白万々、舞妃蓮、酔妃蓮、重台蓮等十品種。写真撮影・南定雄



郵便局ホームページ「郵便局ツウハンショップ」
<http://www.postal.jp.com/psc/googs/index.html>
通販価格は商品+送料で¥2000。

東ベンガルの熱帯「蓮」

オーストラリア在住のG・ミツチエルさんは、王蓮という中国名をもち、『蓮文化だより』12号(2008年)の「蓮めぐりカスビ海」の講演者です。「Ogenkidesuka?」と始まるメールが入ったのは、今年一月のことでした。その内容は、北京の蓮シンポでの印象や、12号のお礼、今年はマカオで…等。それに添付されていたのが、左の写真です。昨年(08年)10月に、東ベンガルで撮った *Original Lotus* だと書かれていました。本人の了解を得ましたので、紹介します。

ちなみに、ベンガル地方は、インドの東北部、ガンジス川の下流域にあたります。赤い顔料のベンガラ(紅殻、ベにがら)とはオランダ語ですが、ベンガルを産地とすることが、その名があります。



蓮の露——良寛と貞心尼を訪ねれば

「郷土の偉人」という存在は、誰にもあるだろう。その地方を代表する人物で、全国的な知名度をもつことが多い。新潟県中部に生まれた者として、良寛の話は、それこそ「耳にタコができる」ほど聞かされた。

その郷里を離れて四〇年以上になる。東京で、良寛のことが話題になったりすると、周囲の目がこちらに向く。だが、それほど良寛のことを知らない自分に気づいたりもする。いつか、良寛の里を訪ねたいと念じてきた。

蓮が、やはり契機となった。晩年の良寛には、貞心尼という弟子がいたそう。しかも、この二人が交わした手紙や和歌があり、その名も『蓮の露』とか…。これは調べなければならぬ、と一念発起した次第。

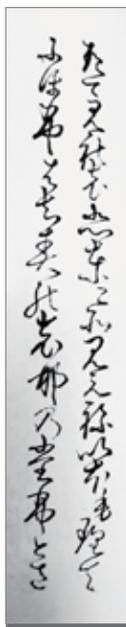
原発の事故で有名になった柏崎、その市立図書館に、『蓮の露』があるとの情報。さっそく訪れると、それはオリジナルではないが、じつに精巧な複製だった。

それで十分である。きわめて流麗な筆致は、貞心尼のものである。良寛の書もまた、数多くの逸話があるように「超級であるが、弟子もまたスゴイレベルだ。

こちらの目的は「蓮」である。目を皿のようにして、彼女の筆致を追う。いくつか「発見」できたが

起て見礼者悲東こそ見え襦以本毛理天
爾は布者知春能者那乃堂布とき

だけ(左)が実景を詠んでいるようだ。これを翻訳すればきて見れば人こそ見えね庵守りて
匂ふ蓮の花のたふとき



となるだろう。庵はいうまでもなく、弥彦にちかい国上山にある五合庵である。出雲崎で庄屋の長男に生まれた良寛(山本栄蔵)は、なぜか十八歳で出家、備中(岡山県)で修行、京都などをへて越後へもどったのは、なんと三十九歳になってからのことだ。江戸時代の後期の人としては、破格に広い世界を見ていたことになるだろう。

しかし彼は、いわゆる高僧になったわけでもないし、名刹の住職になったのでもない。外面的にみれば、ごくごく普通の僧侶であり、托鉢によって生計をたてている。

五合庵のある国上山から下りてきては、民家をまわり布施を乞うのである。ときには子供たちと遊びほける。そんな良寛であるが、やがて周囲も彼の真価を認める。

いまの長岡は、かつて牧野藩が支配していた。その藩士の家(奥村)に生まれたマスは、十七歳で医家に嫁ぐが、まもなく離別し、出家する。それが貞心尼で



「良寛と貞心尼のブロンズ像」良寛の里美術館

ある。

文政九年(1826)、その貞心尼が初めて良寛を訪れる。彼女は三〇歳、良寛は七〇歳であった。その対面は、上の写真(良寛の里美術館、長岡市)のようだったろうか? 良寛には自画像があり、その後に描かれ、作られた像も少なくない。その表情の多くは、渋面ないし枯淡といった類であるが、貞心尼と対面する良寛の表情はじつに温顔であり、微笑さえ浮かべているようだ。それは自分の生きざまに対する彼女の理解のゆえであろうか、はたまた歌を詠みかわすという文雅な交流のゆえであろうか?

前記の和歌を、文字どおりに解釈すれば、せつかく彼女が良寛を訪れたのに、庵主は不在だったが、芳香を放つ蓮だけが留守番をしていた、ということになる。

「蓮の露」のなかに貞心尼の「蓮の和歌」を見出し、良寛の里美術館で対面する二人の像をみた後、良寛の終焉の場所や墓などを探して歩く。良寛の最期(75歳)を看取ったのは、弟の由之と貞心尼だったという。

気づいたことに、自分が歩いている道は「はちすば通り」ではないか! 民家の玄関には50センチほどの桶がならび、浮き葉も出はじめている。それが「良寛誕生250年」を記念した地元の動きであり、その中心人物が早川富一さんであることも分かった。さっそく早川家を訪ね、「蓮談義」に花を咲かせたことは、改めて報告したい。池上正治

「蓮100の不思議」出版への寄進のお願い

既にご案内申し上げておりますが、当会サイトでおなじみの「蓮Q&A」が、今般『蓮100の不思議』と題して、216ページの書籍となって出版されます。

これに要する資金確保と、会員の皆様へ割安提供を考慮し、寄進を仰ぎ、相当数の贈呈準備をいたしました。

今のところ37名ほどの方々にご協力をいただき、見通しが明るくなってきており、深く感謝申し上げます。まだの方にもご検討いただきたく、再度ご案内を申し上げます。

この新書は、蓮通信、サイトでは見られなかった、魅力的写真や図版が豊富に追加されています。

全理事が一丸となって取り組んだ力作ともいえる、見て、読んで、美しく楽しい…、フルカラーの豪華本が、まもなくデビュー致します。どうぞお楽しみに!

理事会